

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2022年 9月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2022年 9月 1日発行 通巻353号

「山の日記念講演会」特集

9月号目次

・ 目 次	2
・ 山の日記念「田中陽希講演会」を終えて	3
・ 山の日記念講演会 参加感想 (1)	7
・ 〃 (2)	8
・ 〃 (3)	10
・ 〃 (4)	11
・ 〃 (5)	12
・ 〃 (6)	13
・ 房総の山復興プロジェクトについて	15
・ オンライン講習会のお知らせ	16
・ 事故防止・経験交流集会の案内	17
・ 9月・10月予定表	18

< 表 紙 写 真 説 明 >

講演会全体の雰囲気を感じられますでしょうか？

陽希さんの講演が終わり、最初の質問がされている時のモノですね。

この写真は、田中陽希さんの活動などを応援する

『人力チャレンジ応援部』代表部員の金田剛仁（カネダコウジ）さんから提供していただきました。

後日、田中陽希さんからの礼状メールにも同じ写真が添付されていました。

（千葉労山講演会事務局：安彦秀夫）

ちばニュース9月号は、参加した会員から寄せられた感想が中心です。
参加者の皆様、参加者やチケットの取りまとめをしていただいた県連理事・
会代表者の皆様、ご協力をありがとうございました。

—— 編集者 ——

山の日記念「田中陽希氏」講演会を終えて

安彦 秀夫（東葛山の会）

陽希さんワールドに参加者が酔いしれる！

8月11日（木：山の日）千葉市民会館で開催

千葉労山の仲間 208 名が参加

2019 年秋に襲来した台風は、房総半島に想像を絶する被害を与えました。私たちの活動のフィールドの山野にも大きな影響を及ぼしました。具体的には、多くの倒木や山そのものの崩落により登山道はいたるところで寸断され、それまではルンルン気分で楽しめていたハイキングコース（登山道）は、全く歩くことができなくなりました。

この惨状を何とかしよう…と、千葉県内の主要山岳 3 団体が、登山道の復旧を最大目標に掲げて『房総の山復興プロジェクト』を立ち上げました。しかし、コロナ禍で思うように活動ができなく、個人的な活動に留まっていました。

昨年 2021 年暮れに、プロジェクトを再結集し、県民を始め多くの人達に、房総の山の現状と復旧活動を知ってもらい、一緒に房総の自然を守っていこう…ということで、再スタートを切りました。その一つが、今回の『山の日記念講演会』の開催でした。

千葉労山としても、個人的な活動に留まり、県連挙げての具体的な登山道復旧活動を展開するに至りませんでした。これを機に、新たな機運が生まれることを期待しています。

講演会開催に向けて準備に加わってきましたが、大きなトラブルもなく終えることができホッとしています。

この機会に、この半年余りの講演会開催までの経緯（裏話）などについて、プライベートなエピソードも交えて、私なりに感じたことを書いてみたいと思います。又、講演会の様子については、多くの参加者から感想・意見などが寄せられていますので、紹介したいと思います。



1) 私が準備スタッフに参加した背景

田中陽希さんを招いての講演会を知り、直ぐ、準備メンバーに手を挙げました。その理由は、私が 60 歳の夏に、『日本三百名山全山踏破』を達成し、NHK BS テレビで、『グレートトラバース 1、2、3』を毎回欠かさず、自分が歩いた時のことをダブらせて見ており、機会があったら是非陽希さんと情報交換をしてみたい…と、ズ〜っと思っていました。加えて、多くの陽希ファンが満足する講演会にしたかったからです。

2) 準備に加わって感じたこと

考え方や行い方などが異なる3団体が、一つのことに取り組もうとする際の難しさを痛切に感じました。ただ、どの団体のメンバーも『講演会をやってよかったと思えるためにはどうすればよいか…』という熱い思いで準備に取り組んでいることは伝わってきました。そのため、多くの意見が出た…と思っています（思いたいです）。

『いつまでに何をどのように進めたらよいか…』という点で、かなり苦労しました。また、コロナ禍ということもあり、千葉労山所属の各会で思うように例会などが開催できない中で、講演会の案内、参加者の募集・申込み、入場料の集金、チケットの配布などをどのように進めたらよいか…を常に考え、取り組んできました。

ところが、千葉労山として方針を出し、具体的なスケジュールを作成し取り組んできたにもかかわらず、途中で他の団体の都合により変更を余儀なくされました。その際には、各会代表者や理事の皆さんには、相当無理なお願いをしましたが、状況を理解していただき、全面的に協力をいただきました。非常に感謝しています。

3) 参加申込み、入場料集金そしてチケット配布

当初の方針では、参加希望者が確実に参加できるようにするため、そして、コロナ禍で自由に対面での例会などを開催できない状況を考慮し、専用の参加申込書で、各会代表者又は理事から、5月（一次集約）、6月（二次集約）、7月（最終集約）の理事会開催に合わせ、早め早めの申し込みをしてもらい、申込み状況を随時確認しチケットの確保をし、『講演会当日に入場料集金とチケット配布をする…』と決めて進めてきました。

しかし、プロジェクトの会計処理上から、7月末までに入場料納入と参加者名簿を提出しなければならなくなり、方針を大きく変更せざるを得ませんでした。

具体的には、6月理事会（6/16）と7月理事会（7/21）に、申込者の入場料集金とチケット配布をし、労山会計より入場料をプロジェクト会計担当（日本山岳会千葉支部）に振り込み、私からは参加者名簿をメール送付しました（7月下旬）。

日程的には非常に切羽詰まった感じでしたが、各会代表者、・理事そして会員の皆さんの協力により、途中での方針変更にも関わらず予定通りに進めることができ、参加申込者数が『241名』となり、講演会当日を迎えることになりました。ただ、開催日が近づくにつれコロナ感染者数が急増し、陽性者も出るなどして、予定通り開催できるのか…非常にやきもきした日々を過ごしました。



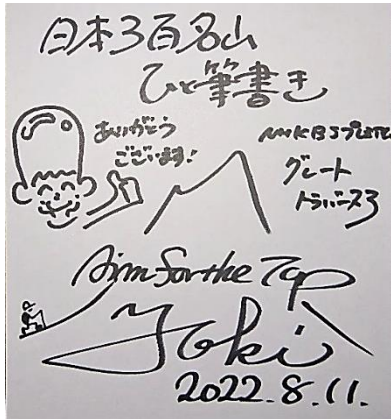
4) 講演会当日の受付

『主催各団体（3ヶ所）』と『一般（1ヶ所）』の4ヶ所の受付を設置し、来場者の混雑緩和に努めると同時に、入口には、『非接触型体温測定器』2つを準備しました。

千葉労山としては、会ごとの参加申込書で、各会理事や代表者などが参加者の確認をし、会として纏めて受付けをしてもらいました。結果として、比較的スムーズにで

きたのではないのでしょうか？ 但し、回収した参加申込書の参加確認欄への記入が一定ではなく、集計するのに悩むこともありましたが…。

5) 陽希さんのサインを欲しい…



「サイン会はしないのですか？」という問合せがありました。しかし、講演会当日のスケジュールでは『サイン会』を設定する時間的余裕がなく「できません」という回答をしました。

しかし、『これに代わる何かをしたい…』という思いが湧き、陽希さんを交えた Zoom 打合せの際に「20 枚ほどの色紙にサインをしてもらうことはできますか？」と質問をしたところ、「いいですよ！」と快諾していただきました。

講演会当日、楽屋で色紙 20 枚にサインをしていただき、陽希さんより『2 桁数字』2 つをもらい、『チケット番号の下 2 桁が同じ番号』を当選としました。

『2 桁数字』は、『39（陽希さんの年齢）』と『83（陽希さんの生年月日の西暦下 2 桁）』で、12 名が当選され、残った 8 枚は、各団体や講演会を開催する際にお世話になった方々に配布しました。

6) 会場『千葉市民会館』への提出書類

千葉市民会館から要望された次の書類を提出しなければなりませんでした。

- ① 施設利用者留意事項（新型コロナウイルス感染拡大防止対策）
- ② 防災警備計画書（緊急時の避難誘導担当者などの届け出）
- ③ 誓約書（看板、弁当、花の館内持ち込みの際の厳守履行事項）

最後までこじれにこじれたのが、上記書類の責任者名（統括責任者名）で、Zoom 打合せで本人も了解して決めたにも関わらず、異議を唱えるメンバーがいたことでした。個別に調整も試みましたがダメで、決まったのが開催 4 日前の最終 Zoom 打合せでした。

書類を作成する私にとっては、できるものはできる限り早い時点で片付けておきたかったのですが…。プロジェクトメンバーや千葉市民会館職員とのやり取りが、講演会開催前日まで続きました（電話とメール）。

7) 講演会当日の私の動向（今後の参考のために）

- ① 市民会館予約担当者と一緒に受付に行き、『上記（6）の 3 書類』及び『会館使用許可書』を提出し、諸注意などを確認後、『第 6 楽屋』の鍵を預かりました。
 - ② プロジェクトメンバーと受付担当者などが集合し、お互いにするべきことの確認を行い、各持ち場に散り準備に取り掛かりました。
 - ③ 受付 4 ヶ所の設置場所を指定し、受付担当に設営をしてもらいました。
- その後、来場者に配布するパンフレットなどの袋詰めをしてもらいました。

- ④ 会場入口に『房総の山復興山の日記念講演会』の大きな看板の設置を頼みました。
- ⑤ スクリーン投影機や記録撮影カメラ周辺座席に『着席禁止マーク』を貼付しました。
- ⑥ 質問者用マイク 2 本に『質問者用』のプレートを吊るしました。
- ⑦ 第 6 楽屋の確認をしました（除菌用シート設置、冷房 ON など）。
- ⑧ 田中陽希氏への質問トップバッターを会の仲間にお渡しし、快く引き受けてもらいました。感謝の一言です。
- ⑨ 田中陽希氏を楽屋に案内し、講演会のスケジュール概略を説明し、色紙 20 枚にサインをしてもらいました。併せて、『2桁数字』2つを決めていただきました。
- ⑩ 避難誘導担当者を対象に、市民会館職員から緊急時の対応などについて説明をしてもらいました。併せて、質問も受け付け疑問を払しょくしてもらいました。
- ⑪ 昼食中に、宝篋山で知り合った人との再会や個人で房総の荒廃した登山道の復旧作業をしている人と初対面をしました（2人とは、事前にメールで調整済み）。
- ⑫ 千葉テレビ記者の対応をしました（開会式直前に一般受付付近で）。
- ⑬ 田中陽希氏のサイン入り色紙の当選番号を司会者に知らせるとともに、会場の参加者に分かるように数字を大きく書いた紙を渡しました。
- ⑭ 田中陽希氏の登壇手順を司会者と調整しました。（どこから、いつ、登壇するか…）
- ⑮ 楽屋の鍵を他のプロジェクトメンバーに渡し、講演後の田中陽希氏の対応をお願いし、会場出口に向かい、サイン入り色紙を当選者に渡しました。外れた人の中には、色紙を写真に納める人や、「譲ってもらえないか…」と懇願する人もいました。
- ⑯ 会場座席の『着席禁止マーク』などの撤収を行いました。
- ⑰ 講演会会場全体を再点検し、受付に楽屋などの鍵を返却しました。
- ⑱ プロジェクトメンバー全員が記念写真に納まり、全てを終了しました。

8) 講演会を終えて

コロナ感染者数が急増し予定通り講演会を開催できない場合にどうするか、私自身がコロナ陽性者になった場合にどうするか…などのことを考えたりもしましたが、全てが杞憂に終わり、多くの来場者を見た時には嬉しさがこみ上げてきました。

講演会のタイムスケジュールや司会の原稿などの素案を事前に作成し、ほぼその通りに進められ、無事講演会を終了した時は、肩の荷が下り、「やり切った…」という満足感が一杯でした。（翌日は、1日中解放感に浸ってのんびりしていました。）

大きな問題もなく講演会を開催できたことは、千葉労山加盟の各会の代表者・理事そして会員の皆さん、役員の皆さんの協力があったればこそ…と感謝しています。

更に、共催 2 団体や一般の方々の参加・協力もあり開催できた…と思っています。

参加者の皆さんから多くの感想・意見などをいただきましてありがとうございます。今後も、房総の山の復興に、そして、千葉労山の今後の活動に、このエネルギーを注いでいただくことを切望するとともに期待しています。多謝（2022/8/27/Sat.）





山の日記念講演会 参加感想

広川 登志男（君津ケルン山の会）

今回の講演会では、前段で「房総の山復興プロジェクトの現状」（約 30 分）、後段で、田中陽希氏の「グレートトラバース 3」（約 90 分）が披露された。

後段の「田中陽希氏の講演」で思ったことを、まず書こうと思う。

一つ目は、長丁場の山行だったこともあり、山行計画作成での緻密な調査と頭の中でのシミュレーションだ。図書などでの詳細調査にくわえ、現地に詳しい山小屋や地元の山の会の人たちへ現地情報を問合せている。その上で山行シミュレーションを頭の中で繰り返し行い、不安点や不明点をなくしていったという。私たちも、山行前には情報収集するが、作成した計画を頭の中でシミュレーションするまでは至っていない。今の自分では、シミュレーション自体をどうやれば良いか想像できないが、繰り返し行うことで、実態が見えてくるようになるのだろう。やってみる価値は大きいと思う。

それと、「無理は禁物」のことだ。陽希氏も話していたが、計画通りにしようとするのと大げがをする。自動車運転ではよく言われることだが、「かもしれない運転」の言葉がある。「ひょっとすると遭難するかもしれない」と思って、引き返す。または、ビバークして翌朝明るいときに活動する。この「かもしれない」を十分認識して行動したいと心を新たにした。

二点目は、テレビでグレートトラバースを拝見していて気になったことだ。山頂に多くの応援者が待っている、まっすぐ山頂の標識に向かい、触れるやサッと身を翻して下山に向かうことが、まれにあった。確かに百名山一筆書きしている最中だ。

次の山が待っていて気が急くのだろう。気持ちはわかるが、寒い中じっと待っていた応援者はどう感じただろう。

講演の中でそれに触れていた。彼は正直者だ。「確かに、疲れ果てて山頂についても、まだそのあとが残っていると思うと、気が急いで挨拶もそこそこに一目散で去ったことがあった。これは、迎えてくれた人たちに失礼だったと思う」と、反省していた。

あるときのことだが、そういう応援者の手を背中に感じたと言っていた。応援者の気持ち、目に見えない形で背中を押してくれて、涙が出たとも言っていた。

今回の「グレートトラバース」で、陽希さん自身が得た最大のものは、『人の思いやりを心の底から感じ取ったこと』ではないだろうか。

前段の「房総の山復興プロジェクト」では、私がこのプロジェクトをあまりに知らなすぎたと反省した。3 年ほど山の会を休会していたこともあるが、大変な復興劇を演じておられたのだと感心させられた。

これまでも、小さい倒木の処理や、竹や茅の除去など人の手でできることは我が会でもやっている。『富山西尾根』や、特に会で人気のある『トビイワ山』などは、行く度に気をついた場所の手入れをしてきた。勿論、今回の講演で紹介されたような、機械に頼る大修理はできないが、自分たちが楽しませてもらっている登山道を、自分たちの手で整理・補修くらいはやらなければならないと、思いを新たにしたい。

山の日記念講演会 参加感想

市川山の会・有志

8月11日（山の日）、千葉市民会館で千葉県内の山岳3団体主催の「房総の山復興山の日記念田中陽希講演会」が行われ、約700名の参加で大盛況でした。

市川山の会からも20名が参加し、日本百名山、二百名山、三百名山一筆書き踏破の偉業を達成された田中陽希さんの話に、時間を忘れて聞き入りました。

事務局に寄せられた参加者の感想です。

1, 集会に対する感想や要望

- ◆千葉県に山に関心がある人がこんなにいるのかと、参加者が多いのに驚きました。労山関係って特に多いのにびっくり。(齊當)
- ◆2年前からの準備という事、ご苦労様です。参加者が多くて良かったですね。(中村)
- ◆当日に向け準備などありがとうございました。たくさんの参加者で盛会でした。コロナ対策でいくつか気になる点がありました。
 - ① 座席について 1席間隔と記載されていましたが…。
 - ② 入場する前の検温は？ 一般参加者の所にはありましたが…。
 - ③ 退場時の混雑を避けるため、列ごとに区切った方がよかったのでは…。(小島)
- ◆多数の参加者で良かったですね。しかし、連帯感というか、個人どうしのコミュニケーションの場が感じられなく、どうしたら山の想いと体験による喜びや日々の不安感などを共感し、安らぎ感を得られる場づくりができるのでしょうか。(佐藤)

2, 房総の山復興の取り組みへの感想や要望

- ◆昨年暮れ、孫を連れて鋸山に行きました。そこで被害が大きかったことを目の当たりにしました。地道な作業で復興してくださっていることを今回知り、頭が下がりました。お手伝いできないことを心苦しく思います。できることを探そうと思います。(齊當)
- ◆復興の取り組みご苦労様です。こんなに地道に取り組まれていることを知りませんでした。(中村)
- ◆自然の脅威を改めて感じました。地道に復興に向け、倒木の撤去や崩落個所を整備し、安全な登山を目指す活動・努力をされている姿に頭が下がります。これからも感謝の念を忘れずに、房総の山を楽しみたいです。(小島)
- ◆その年だけでなく何年も続く作業、ご苦労様です。安全な登山のためにずっと継続している作業、それを支えている会に感謝です。(木村、道祖尾)

3, 田中陽希さんの講演の感想や要望

- ◆陽希さんの講演素晴らしかったです。報道されなかったご苦労や喜び、そしてご自身の成長について語っていただき、感動しました。また、この数日、総集編が放送されているのを観ましたが、これまで以上に親しみを感じました。虚無感が広がるような時代、全力投球で生きる姿から多くを学んでいる人が多いのではないのでしょうか。私も心が満たされました。体力の衰えを否応なく感じる日々ですが、それなりに山に親しめたらいいなあと思っています。(齊當)
- ◆講演会をととても楽しみにしていました。参加でき、本当によかったです。陽希さんの実直なお人柄に触れ、次から次へと発せられる話に引き込まれました。お話がとても上手ですね。テレビの画面では伝わらなかった裏事情も知ることができました。

特に骨折した時の事、緊急にもかかわらず、翌日30kmの道のりを病院まで歩いたという話には、驚きとともにそこまでやるのか・・・と言う思いでした。

また、コロナ禍で移動できず、待機中での人々との触れ合いや心の葛藤も伝わりました。三百名山の挑戦は、当初の予定より達成が大幅に遅れてしまったようですが、無事にやり遂げた思い、悔いは無いという言葉に心から拍手を送ります。陽希さんのこれからの人生がさらに充実されることを祈願しております。(小島)

◆テレビで観ていた陽希さんの誠実感が溢れていたのが印象です。とても素朴な同視点というか彼の人の人柄そのものの感じの講演でした。古より日本人は「懺悔懺悔、六根清浄」と唱え、白衣(再生)(死装束)で山道を歩いたそうです。山には、下界の不浄な情報も意識も無いので、それらに毒されないで済むので、清浄な空気、風景、植物に触れ、六根を清浄にとり戻せるおかげがあるのですね。100, 200, 300と歩かれた彼の話の中に、ただただ歩かれた体験で得られた変化と、ゆっくり歩く800の話をもっとお聞きしたかったです。(佐藤)

◆「やりたい、登りたい」と「やれる、登れる」は違うこと、冷静な判断等、登山だけでなく日常生活、生き方にも向けたメッセージがたくさんありました。映像と合わせてとても良かったです。(木村、道祖尾)

◆淡々と話されていましたが、300名山踏破には大変なご苦労があったことと思います。映像もあって話もとても分かりやすかったです。これからも健康に気をつけてご活躍ください。(中村)

◆陽希さんの講演は、映像を交えての具体的なお話で、とても分かりやすく面白かったです。「三百名山一筆書き人力踏破」という偉業達成の裏に、周到な準備とトレーニング、コロナ禍や骨折などによる思いもよらない苦労、行く先々での地域の人々との交流や援助、山を愛する人々の激励があったことを知り、とても感動しました。

また、失敗やアクシデントの経験、出会った人々のアドバイスや苦言からも謙虚に学ぶ陽希さんの姿勢に、誠実な人柄と精神力の強さを感じました。

偉業を達成された陽希さんの強靱な体力と精神力がどこでどのようにして培われたのか、もっと聞きたかったです。今後持ち場に戻り、仲間と共にアドベンチャーレースに挑戦される陽希さんの活躍を期待しています。私も陽希さんを少しでも見習って、体力・気力の続く限り山を楽しみたいと思います。(松宮)



千葉市民会館 正面案内板



演壇のお花 (ちば山の会・会長)

房総の山復興「山の日」記念講演会に参加して

小山 政夫（千葉こまくさハイキングクラブ）

田中陽希氏のグレートトラバースは、放送局が頻繁に放映するので食傷気味で何がグレートなのか、放送時間を埋めるのに便利なだけではないのか。酸素希薄はもとより、危険な岩場、氷河など無く、言葉、食べ物も心配無い国内の山歩きではないか、とあまり関心は無かった。しかし当日になり、折角山の記念日で県連及び関連団体が準備したイベントで房総の山復活の件も有るので会場へ向かった。

今まで講演と言えば2003年にエベレスト初登50周年記念行事の一環でヒラリー氏が田部井さんの母校昭和女子大に来ると耳にし、期待して笹塚へ行った。ところが誰も来ていない。守衛によると氏は高齢で体調も有りキャンセルになったとのこと。

又、三浦雄一郎氏がエベレスト登頂後千葉に来た折、話を聞いた。更なる高齢登山のためメタボ体躯から復活した話に興味を持った。

今回の講演では、①台風で壊滅的被害を受けた房総の山道の補修に努力されているグループの話聞き実に有難いと思った。②田中氏の山歩きは支援部隊がお膳立てしているから可能なのだろうと思っていたが本人自身がプランニングしていると伺い、大変な努力をした上で成し遂げたのだと再確認した次第。

今後機会あればお話しを聞きたいと思っている人は、①大城和恵氏（北海道大野病院を経て英国レスター大学で山岳医療修士となった国際山岳医）、②山野井恭史氏（冬季フィッツロイ登頂）③平出和也氏（3度失敗の後2017年7月4回目にシスパーレ北東稜登頂）などです。



山の日記念講演会 参加感想

E・K（千葉こまくさハイキングクラブ）

コロナ禍中でも公演が中止となる事なく実施と共に、日々の取り組みに関係者の皆様には感謝、感謝です。講演された陽希さんはTVからの印象通りの方で清々しい青年でした。山の話は元より「外見は内面を表す…」との言葉が印象的で、白のシャツに黒のズボンの出で立ちに本人の内面を覗いた気分です。

精神的にも落ち着き、良い状態なのだと安堵する自分は母親のような気持ちになっていました。楽しい時間を有難うございました。

山の日・田中陽希講演会で思ったこと

羽鳥 健一郎（東葛山の会）

- ・会場は千葉駅から近く、収容人数もあり良かった。
- ・開催日は「山の日」にこだわらず、6月とか梅雨の時期でも良かったと思いました。
8月11日は祝日でお盆の連休を前にし、夏山山行も最盛期でした。大人数の会で出席率が良くなかったのは「8月11日」にしたことも一因か…。
- ・県連の受付は4名でしたが、各会の理事が自分の会の参加者を把握し受付に協力してもらい助かりました。やはり県連の行事は色々ありますが、先ず各会ごとにまとめることが大事と思いました。
- ・ゲスト田中陽希氏の人選が、何より良かったと思います。
- ・また、参加できなかった会員にも、田中陽希講演会の模様を県連の行事の成功例として、DVDの配布等を早めをお願いしたいと思います。



登山受付担当（左より各理事・役員）

田中（ふわくHC）

菅井（ちば山の会）

羽鳥（東葛山の会）

山の日記念講演会 参加感想

中山 竣（山の会らんたん）

私は、現在81歳ですが、山との出会いは79歳の時に宝篋山に登ったのがスタートです。登山の浅い私が、田中陽希さんの2018年1月1日「屋久島」から2021年8月2日「利尻山」での3年7ヶ月「301座」を人力のみで完遂されたお話を聞いて、大変感銘を受けました。

その中で、2021年夏、最難関である北海道の日高山脈の縦走には相当量の水を持って行かないといけなかったのが、バックパックが重くて太ももに載せてから担げなかったのが、高い所に載せてから担いだのが後ろにひっくり返ったりしたので、10日間ほど担いで上り下りの訓練をして不安を解消して縦走を果たした…というお話を聞いて感銘を受けるとともに、努力の大切さを痛感しました。

山行についてのお話の中で、特に印象に残っているのは、次のお言葉です。

- 1、 山行は、一步一步進め年輪を作っていくようなもの
- 2、 ゆとり、冷静さを保っていないと的確な判断が出来ない
- 3、 先を予測する力、観察力が鍵となる
- 4、 登りたい気持ちと登れるは違う

以上簡単ではございますが、「感銘を受けたこと」と「印象に残ったお言葉」について書かせてもらいました。

山の日記念講演会 参加感想

桑原 年一（松戸山の会）

参加して一番に気づいたのは、主催者のご苦労です。台風被害の各コースの整備等の映像で見せてもらって余計に感じました。私など何にもお手伝い出来ず残念に思う次第です。当日は暫くお目にかからない会の面々に会うのが心待ちで、会えてよかった…と思いました。

本題の田中陽希氏の講演も心待ちでした。丁度BSテレビで、氏の300名山に入り250座目の雪山苦戦シーンを見ていましたし、出かける日も7:45からを見てから家を出ましたので余計に親近感が燃えてきました。講演も沢山場数を踏んできたようで聞きやすく、山行は到底足元にも寄り付けなくても、私も行った気分になりました。

コロナ渦最中でも、スタッフの皆さんの努力のお陰で楽しむ事が出来ました。



（桑原氏 提供）

山の日記念講演会 参加感想

丸山 宏（松戸山の会）

記念講演会の取り組み、ありがとうございました。

今までと違った取り組みで楽しかったです。

下記に簡単な感想を記します。

房総の山の台風被害の大変さと復興に関わる共同の取り組みがよく解りました。田中陽希さんの300名山トラバースは、ちょうど今NHK BS放送で冬に差し掛かる東北シリーズが放映されており、会場で見るとその明るい人柄と挑戦する姿が印象的でした。

田中陽希講演会 感想

深草 茂美（岳人あびこ）

1.避難誘導担当に指名されて

当日、会場管理責任者の方からの口頭説明に従い担当する扉付近の席で、「不慮の災害が発生した場合にうまく観客誘導が出来るか」不安な思いで講演を聞きました。

結果、何事もなく講演が終了したのでホッとしました。口頭の説明だけでなく、災害が起きた事を想定した実際の行動を指導して頂ければ、もうすこし落ち着いた気持ちで講演を聴く事が出来たのではないかと思います。

2.房総の山復興プロジェクトの講演について

行政と一体となり地権者と話し合いながら計画的に復興活動を進めている…との説明がありました。それでも、まだ整備・復興出来てない登山道が多数残っているとの説明もあったように思います。この説明によりプロジェクトを推進している方々のご苦労がよく理解できました。

活動は今後まだ長く続く事になると思います。県連においても組織的且つ継続的に、この活動を推進する視点で議論をより深める事が必要であると感じました。

3.田中陽希さんの講演について

T V番組「グレートトラバース」で紹介されなかったエピソードや、陽希さんの思い、そして登山に対する心構え等々の盛りだくさんのお話を拝聴し、その一つ一つに感動しました。講演を聞き終え、陽希さんは単なる登山家でなく「求道の人」であると思いました。それは陽希さんの次の言葉がものを語っていました。

“この挑戦の中で一番感動した瞬間は、最後の 301 座（利尻山）を踏破した時ではなく、その一つ手前の 300 座目（天塩岳）の頂上に立った時”

そして壇上に立つ陽希さんからオーラのようなものを感じました。

-以上-

当会会員からの感想を 2 件紹介します。

<感想 1>

*田中さんに宛てた手紙です。感想文がわりです。

田中さん、「山の日」に相応しい、素晴らしい記念講演をありがとうございました。

私は、田中さんの山のテレビは、どれも逃さずに楽しませて頂いておりました。

様々な葛藤を抱えながらもくじけずにやり遂げられた事って、もはや貴方は、雲の上の人です。でも、赤湯温泉の「ご飯」を丼で 5 杯もおかわりされた…という話を「山口館」のご主人から聞いたとき、田中さんがとても身近に感じられました。本当に美味しいご飯でしたものねー。

どうか今後も益々ご活躍されますように。

<感想 2>

先日の講演会の新聞記事などお送り頂き有り難うございました。グレートトラバースは再放送も含めよく見ているので田中陽希さんにとっても興味がありました。

今回、ナマ陽希さんを拝見でき、お話を聞くことができてとても嬉しかったです。講演もテンポ良く話を進められ、あっという間の楽しい2時間でした。

房総の台風被害についても、多くのボランティアの方が大木の伐採や登山道の階段作り等、手弁当で色々な修復をして下さっていることを知り、そのご苦勞に改めて感謝する次第です。とても有意義な講演会でした。

関係者の方々には何ヶ月も前から準備をしていただき有り難うございました。

-以上-



山の日記念講演会に参加して

鈴木 菊枝（ふわくハイキングサークル）

台風被害状況と復興説明は映像を見ながらの説明でわかりやすく良かったと思います。頂いたプログラムにも写真があったのでより詳しく理解できました。落石や倒木、当時の被害状況が目の前に…。

関東ふれあいの道「モミ・ツガの道」を2回程歩いていますが、補修された道をもう一度歩いてみたいです。

主催3団体や地元の有志の協力、そして、ふわくの田中会長もその一人でチェーンソーを担ぎモクモクと作業しています。

「房総の山」が皆さんに守られている様子がわかりました。

待ちに待っていた田中陽希さんが、テレビと変わらぬ姿で登場（百名山や二百名山などの映像でよく見ていました）。

どんな話をしてくれるのか興味津々。言葉を飾るわけでもなく、淡々と笑顔で話している。時に裏話・失敗談等、歩いていて沢山のひとと触れながら成長してきたという。

質疑応答は参加者の本音です。田中陽希さんの体どうなっているのでしょうか？もっと知りたいところでした。これからのプロアドベンチャーレーサーに期待したいです。

当日、前の方に席を取りましたが、いつのまにか会場が埋め尽くされていました。年に1度ぐらい講演会や映画会（山に関する）をやることもいいのでは…と思いました。

入口付近・受付どうなっているのかわかりませんでした。

房総の山復興プロジェクトについて

千葉県連盟 会長 広木 国昭

2022年8月11日「山の日記念田中陽希講演会」を、房総の山復興プロジェクト主催により実施しました。

ちばニュース9月号を「記念講演会特集号」として、参加した皆さんから寄せられた感想と安彦秀夫さんから記念講演会の詳細報告を掲載します。

私からは「房総の山復興プロジェクト」の活動について紹介をして、今後の活動に参加・協力をお願いします。

2019年9月に台風15号、10月に19号が連続して上陸、その直後に21号の影響を受けた大雨により、千葉県は大きな被害を受けました。特に南房総の山間部は、土砂崩れや樹木倒壊等により登山道に壊滅的被害を受けました。

この現状に対し、被害発生直後から登山団体や地元の有志が復旧作業に取り組んで来ました。千葉県連盟では、「ふわくハイキングサークル」や「君津ケルン山の会」が、ロングハイクコースや群界尾根縦走コースを中心に復旧作業に取り組んで来ました。

しかし、個々の力での復興作業には限度があり復旧作業は進んでいません。

登山シーズンを迎えて県外からの登山者が増えても、登山道の危険案内や安全登山に問題がある事等を周知出来ません。県や市町村の復旧は、母屋等の復旧優先で登山道復旧には手が回らず、民間のボランティア活動に依存しています。

このような現状を打開し登山道の復旧をするために、千葉県の山岳3団体が参加して「房総の山復興プロジェクト」を立ち上げました。

千葉県連盟は創立以来、房総の自然を守る活動に取り組んで来ました。追原ダム建設阻止・鬼泪山を守る運動に千葉県連盟は総力をあげて取り組み成果を上げました。

この経験に学び引き継いで行くために、「房総の山復興プロジェクト」に参加して登山道の復旧はもとより房総の自然保護に取り組んで行く事を選択しました。

これからの課題は、プロジェクトに「参加したが復旧作業への参加者がいない」といった事のないように、理事会が中心になって取り組んで行くことが重要です。

東葛・松戸・柏の会や常磐線沿線の会員の皆さんは、交通などを考えると参加し難い状況だと思いますが、主旨を理解して参加・協力をお願いします。

総武線や外房・内房線沿線の皆さんは、地の利を生かして積極的に参加して下さい。

出来る人が、出来る時に、出来る事を お願いします。

2022 オンライン講習会開催のお知らせ

事務局 教育遭難対策委員会

担当 伊東春正（かがりび山の会）

メール：itou2385@yahoo.co.jp

8月初めの猛暑、その後の雨模様の天気の皆様はいかがお過ごしでしょうか？
さて、昨年につづき今年もオンライン講習会を4回開催いたします。
テーマおよび日程は、役員会と理事会で次のように決まりました。

第1回

テーマ：労山基金を正しく理解し、上手に活用しよう！

－ 他の山岳保険との比較に見る優位性 －

日程：9月29日（木）19:00～20:30

講師：鶴田 秀雄氏（ちば山の会）

第2回

テーマ：海外委員会よりネパール・ピサンピーク登山報告

日程：10月27日（木）19:00～20:30

講師：酒井 莊多氏（船橋勤労者山の会）

第3回

テーマ：ココヘリの紹介

日程：11月24日（木）19:00～20:30

講師：AUTHENTIC JAPAN 社

第4回

テーマ：著書「一生、山に登るための体づくり」の講演

日程：12月22日（木）19:00～20:30

講師：石田良恵先生

後日、『開催案内』と『参加申込書』などを メール配信します。

なお、オンライン講習は Zoom で行います。

開催日まぢかになりましたら、参加申し込みをした方に『Zoom 講習会招待メール（URL 記載）』を配信しますので、その URL をクリックするだけで講習会にアクセスできます。

多くの参加を期待していますので、よろしくお願いします。

2022 事故防止・経験交流集会の案内

千葉県勤労者山岳連盟・教育遭難対策委員会

今年も事故の共有化・再発防止と各会交流を趣旨に開催します。
千葉市内の会場で日帰りで実施し、参加しやすくしましたので、各会の積極的な参加を期待します。
詳細は下記を参照下さい。

記

- 1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会
- 2) 日時 11月5日(土) 10時～16時30分(9時30分より受付)
- 3) 場所 千葉市幕張勤労市民プラザ 多目的ホール
JR 海浜幕張駅より徒歩 13 分
* 昨年と同じ場所です。
- 4) 内容
 - (1) 事故報告
今年度発生の事故報告
 - (2) 事例研究
八ヶ岳遭難事故(労山会員が凍死)を取り上げグループ・ディスカッション
 - (3) インターネットで山行計画を共有できるシステム「コンパス」の紹介
会の山行管理ツールとしてコンパスがどこまで使用できるかを報告
 - (4) フリーディスカッション
いくつかのテーマから希望するテーマのグループに参加し、
自由な意見交換による情報交流(テーマは検討中)
- 5) 参加申込／締切
別途配布の参加申し込みフォームにて 会で一括申請してください。
教遭委員会 伊東: itou2385@yahoo.co.jp 090-1774-3384 10/21 締切
参加者は 40 名程度(スタッフ含む)を予定しており、申込多数の場合は、調整する事があります。
また、当日はマスク着用、手洗い・手指消毒を徹底して実施します。



昨年の開催風景

県連活動予定表

9月			10月		
日付	曜日	県連活動予定	日付	曜日	県連活動予定
1	木	役員会 14時～ ZOOM会議	1	土	全国ハイキング交流集会（山口県）
2	金		2	日	〃
3	土		3	月	
4	日		4	火	
5	月		5	水	
6	火		6	木	役員会 14時～ ZOOM会議
7	水		7	金	
8	木	海外委員会 19時～ ZOOM会議	8	土	
9	金		9	日	
10	土		10	月	
11	日		11	火	
12	月		12	水	
13	火		13	木	
14	水		14	金	
15	木	理事会 19時～ 船橋市 西部公民館	15	土	
16	金		16	日	
17	土		17	月	
18	日		18	火	
19	月	敬老の日	19	水	
20	火		20	木	理事会 19時～ 船橋市 西部公民館
21	水		21	金	
22	木		22	土	
23	金		23	日	
24	土		24	月	
25	日	勤労感謝の日	25	火	
26	月		26	水	
27	火		27	木	第2回 オンライン講習会
28	水		28	金	
29	木	第1回 オンライン講習会	29	土	全国登山研究集会（府中市）
30	金		30	日	〃
			31	月	

事故発生時の連絡先

●事故一報は事故発生後一か月以内に！

●全国連盟と県連教育遭難対策委員会の両方にメールまたはファクスで！

全国連盟事務局

メール： jwaf@jwaf.jp

ファクス： 03-3235-4324

県連教育遭難委員会

メール： itou2385@yahoo.co.jp（伊東）

メールのみとします

連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

（ゆうちょ銀行 〇一九店 口座番号0481509）

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 広木国昭

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>

事務所には常駐者はいません